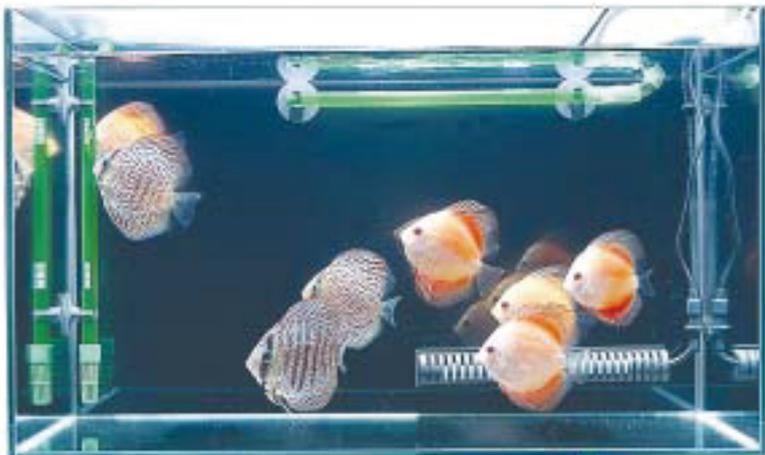


サブフィルターを活用しよう!! EHEIM sub-filter

サブフィルター2213編(ディスカス、アフリカンシクリッド)



弱酸性水を好むディスカスでの使用例

残餌や排泄物が発見しやすく、しかも各個体の美しさが楽しめるようにベアタンクです。フィルターはサブ、メインともに2213です。サブフィルターにはエーハイメックを主用し、中心部分にエーハイトーフ(ピート)をネットに入れてセットしました。エーハイメックに当たった水流は多方向に流れ、ピート入りのネットに多角的に接触してエキスの抽出を促進します。その結果、水槽セット後に短期間で弱酸性、軟水のコなれた水が得られ、ディスカス投入後も調子を落とすことなく、元気な姿、美しい発色を見せてくれています。さらにサブフィルターを設置することでメインフィルターの汚れが抑えられるため、メインフィルターのメンテナンスのインターバルが長くなります。これにより、メインフィルターのろ過バクテリアに与えるダメージを最小限に抑えることができ、メインフィルターのろ材、サブストラットプロの効果を最大限に引き出すことができます。なお、サブフィルターを設置することでろ過容量は2倍になりますが、これは単純にメインフィルターを2台設置するよりも、強い水流を嫌うディスカスにとっては有効な方法で、ろ過能力は約2倍というわけです。

ろ過バクテリアに与えるダメージを最小限に抑えることができ、メインフィルターのろ材、サブストラットプロの効果を最大限に引き出すことができます。なお、サブフィルターを設置することでろ過容量は2倍になりますが、これは単純にメインフィルターを2台設置するよりも、強い水流を嫌うディスカスにとっては有効な方法で、ろ過能力は約2倍というわけです。



サブフィルター2213 エーハイムクラシックフィルター2213

ディスカス水槽【データ】

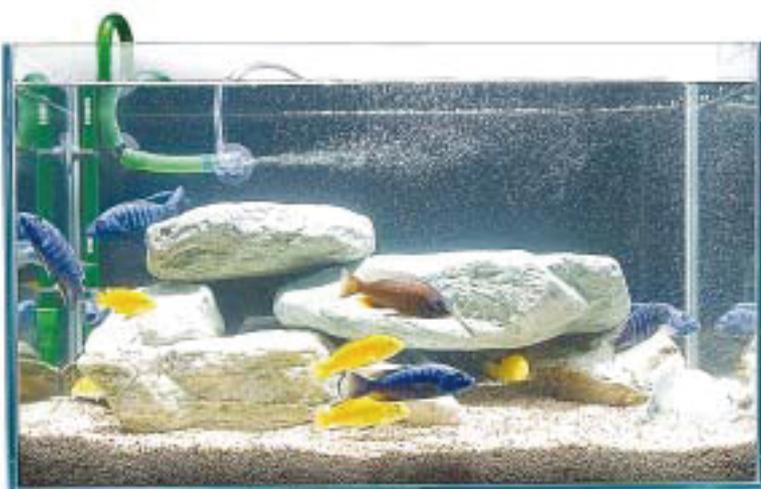
水槽サイズ:60×30×36cm/収容種:レッドスポットターコイズ×3、マルボロレッド×5/水温:30℃
pH:6.3/給餌回数:1日3回(朝昼夜)/餌の種類:ディスカスハンバーグ、赤虫/換水:週1回、全水量の3分の1

弱アルカリ性水を好むアフリカンシクリッドでの使用例

マラウィ湖の水景に思いを馳せ、魚のサイズや生態を考慮し、大きめの石を使い、石と石の間も広めにとって大胆に組み上げました。特に左後景はやや高く積み、右前景はスペースをとり、水景に変化を与えています。底砂、石ともに明るい色味のものを選び、アーリィ、カエルレウスなど色彩鮮やかな種を泳がせ、華やいだ明るい感じに仕立てました。フィルターはメイン、サブともに2213を使用しています。サブフィルターには大粒のサンゴ礫を入れていますが、ろ材としての役目の他に、水質調整にも一役かっています。弱アルカリ性の水質をつくっているわけですが、サブフィルターにセットしてあるので、洗浄や交換を容易に行うことができます。ところが、これが水槽に入れた底砂だと、使用量の調節が難しく、交換なども大変な作業となり、大切な魚にも大きなストレスを与えてしまうことになります。サブフィルターの設置でろ過能力もアップしているので、サイズの大きな個体を多く入れても十分に飼育できます。なお、ディフューザーからの微細な気泡はろ過バクテリアの活動をより活発にします。

アフリカンシクリッド水槽【データ】

水槽サイズ:60×30×36cm/収容種:アーリィ×7、ラビドクロミス・カエルレウス×5、ボルレイ“カタンゴレッドフィン”×1
水温:26℃/pH:7.8/給餌回数:1日1回(昼) 餌の種類:顆粒状飼料、クリル/換水:週1回、全水量の3分の1



サブフィルター2213 エーハイムクラシックフィルター2213

エーハイムサブフィルター2213



使用ろ材早見表

① 活性炭パッド※	② 細目パッド
③ 粗目パッド	④ エーハイメック
⑤ エーハイトーフ(ネット入)	⑥ サブストラットプロ
⑦ サンゴ礫	

※活性炭パッドは2週間を目安に交換、あるいは除去してください。

サブフィルターを活用しよう!! EHEIM sub-filter

サブフィルター2215編 (亀、海水魚)



排泄量が多い亀での使用例

木化石を使用してレイアウトしました。右サイドには大きなものを使い、手前にスロープを作り、その奥に甲羅干しができる陸場を設けています。左サイドにはプレフィルターを設置しているので、亀がプレフィルターを動かさないように、木化石を配してガードしました。排水は右手前のエルボーコネクターから行っていますが、左に向けて水流を得ることもでき、右側面に向けて水流を抑えることも可能です。ここではサブフィルターに2215を使い、エーハイムポンプ1048で循環させています。水槽内の水量が少ない分、大きめのサブフィルターを使用することで、より多くの容積を得ることができます。また吸水口にプレフィルターを設置することで、大きなゴミ等の

侵入を防ぎ、サブフィルターの汚れを抑えるとともに水質低下を遅らせることができます。ちなみに、亀水槽ではセット数ヶ月後から慢性的にpHが低下してしまふことがあります。これを防止するためにサブフィルターにはサンゴ礫を入れてあります。いずれにしても、排泄量が多い亀は頻繁な水替えを必要としますが、プレフィルターとサブフィルターの併用で、その回数を減らすことができます。

亀水槽【データ】

水槽サイズ:60×30×36cm / 収容種:ニシキマゲクビガメ×1 / 水温:26℃ / pH:7.0 / 給餌回数:1日1回(昼)
餌の種類:ペレット、子エビなどの天然素材乾燥餌 / 換水:週1回、全水量の2分の1



サブフィルター2215

エーハイム
水陸両用ポンプ1048

高いろ過能力が必要な海水魚での使用例

全体的に白っぽい印象に仕上がりがやすい海水魚の飼育水槽ですが、少しでも色彩的に華やかになるように、色鮮やかなサンゴを随所に配してレイアウトしました。今回は、エーハイムクラシックフィルター2215と同じフィルターケース容積のサブフィルター2215に、エーハイム水陸両用ポンプ1048を連結して駆動させています。水陸両用ポンプは、トルクが強く水の「押し上げ」や「引き」の力が大きいので、海水魚のように大きく強い流量が必要な魚種の飼育にはまさに最適といえます。このような密閉式のろ過システムを使用した海水魚飼育では、ろ過槽内のろ過バクテリアへの十分な酸素の供給に加えて、海水の活性化にも有効な微細気泡が噴霧できるディフューザーの装備が不可欠です。ただし、大量の微細気泡が吸水口からフィルターケースに吸い込まれると、フィルターケース内部でそれが集まって大きな気泡を形成し、ろ材の間をぬって流れるフィルターケース内部水流のスムーズな通過を阻害してろ過能力の低下を招く恐れがあります。このリスクを低減するには、吸水口をディフューザーの噴霧方向の手前に設置すると効果的です。

海水魚水槽【データ】

水槽サイズ:60×30×36cm / 収容種:フレンチエンゼル×1、フレイムエンゼル×1、
カラーレパタフライ×1、ハタテダイ×1、キイロハギ×1、カクレクマノミ×2 / 水温:26℃ / pH:8.2 / 給餌回数:1日1回(昼) / 餌の種類:フレーク状海水魚用餌料、冷凍アミ、他 / 換水:月1回、10%



サブフィルター2215

エーハイム
水陸両用ポンプ
1048

エーハイムサブフィルター2215



エーハイムサブフィルター2215
標準希望小売価格 10,400円+税

使用する材早見表

① 活性炭パッド※	③ 粗目パッド
② サブストラットフロ	④ サンゴ礫
⑤ フィルターキッセン	

※活性炭パッドは2週間を目安に交換、あるいは除去してください。